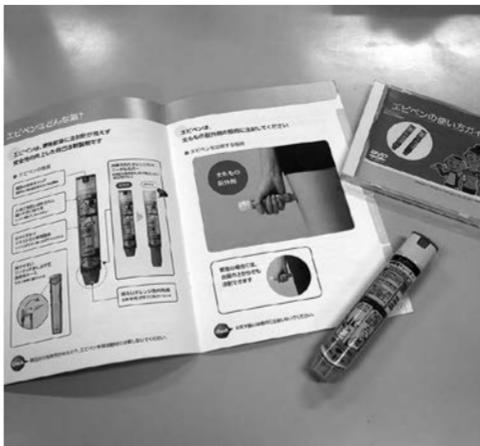


学校給食でアレルギー反応が出た場合の緊急対応の対策は

練習用のエピペンを使用し全教員を対象に研修を行っている

浅田 多津子議員(ネット) 児童・生徒が学校給食を食べた後、アレルギー反応が出た場合の緊急対応の対策は。教育部長 小児科医によるアナフィラキシーショックに関する対処法研修を開催して



▲エピペンとその使い方

また、現在各小・中学校で練習用のエピペンを使い、全教員を対象に職員会議等での研修も行っている。

議員 子どもたちがアレルギーについて学ぶ機会はあるか。教育部長 学習指導要領には食物アレルギーに関する学習内容は無いが、食物アレルギーの子どものクラスに在籍する場合は、関連した学習をする際などにアレルギーの内容や配慮すべきことに触れ

生きづらさに直面する若い女性の実態調査実施を検討する考えは

他機関との連携も図りつつ研究していきたい

前田 弘子議員(ネット) 近年、若い女性が働きづらさや生きづらさに直面し、職に就けない、引きこもっている等の事例が多い。

そこで、職場や学校に属していない若い単身女性の実態を市では把握しているか。市民生活部長 女性問題相談

等を通じて、若い女性からの相談など対応を図っているが、全体的な把握は行っていない。議員 横浜市が無職の若い単身女性に対し実態調査を実施したところ、事業の必要性を痛感し支援講座を立ち上げている。その中では、自分が困難な状況にあり支援の対象になるという気づきがないことが受講生に共通しており、事態の深刻さを感じる。

本市でも先進事例から学び、今後の施策に生かすため、実態調査の実施に向けて検討する考えは。市民生活部長 対象者を抽出するなど課題は多くあるが、女性問題の把握の一環として、他機関との連携も図りつつ研究していきたいと考える。

周囲の子どもたちも含めた安全管理の徹底を図っている。

※アナフィラキシーショック：呼吸困難など生命の危険を伴う激しいアレルギー症状

※エピペン：アナフィラキシー症状を緩和する医薬品

子宮頸がん検診に細胞診HPV併用検診を導入する考えは

国や都などの動向を注視し必要性等を判断していきたい

福田 千夏議員(公明) 子宮頸がん検診について、国では従来の細胞診に加えて平成25年度からHPV検査を導入する方針だが、本市で細胞診HPV併用検診を行う考えはな

いか。

市長 市では、国や都の指針に基づき細胞診による検診を実施しているが、HPV併用検診については、国の検証結果を踏まえ国や都、近隣市の動向を注視しながら必要性等を判断していきたい。

議員 女性のがん検診の受診率向上に向けて、1日で全ての検査が受診できる仕組みをつくれぬか。福祉保健部長 子宮頸がん検診は市内の各医療機関で、乳がん検診は都ががん検診センター等で検査を行っており、同時に受診できる施設の確保は困難と考える。なお、大腸がん検診と乳がん検診については同日に受診できる日程を年間に数日間設定している。

他 不育症への支援について

※HPV(検査)：子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスの感染を調べる検査

都市公園の集約化や管理の在り方に対する市の考え方は

安全性の確保を第一に考え業務の効率化等に取り組むことと

西宮 幸一議員(市友) 市インフラマネジメント計画において、都市公園の集約化や管理の在り方に対する市の考え方を聞きたい。

市長 将来にわたる安全性の確保を第一に考え、管理水準の維持を原則とし、業務の効率化やアドプト制度の導入等に取り組むことで管理経費の削減を図ることとしている。

しかしながら、インフラ全体の管理経費が不足する場合には、利用度の低い公園施設の集約化等も検討しなければならぬものと考えている。

議員 同計画だけでは個別公園への対応の進め方が明確でないため、実施計画の策定が必要と考えるがどうか。都市整備部長 植栽、遊具など公園施設の更新、改修を計画的に行う必要がある



▲公園施設の計画的な維持管理を

子どもたちの理科に対する興味、関心を高める取組は

実験などで学んだことが自然の中で成り立つことを確かめる体験等を行っている

吉村 文明議員(公明) 小・中学生の理科離れが深刻化する中、科学教育の更なる推進が重要と思うが、理科に対する子どもたちの興味、関心を高めるための取組について聞きたい。

教育部長 小・中学校では、理科の実験や学習を通して、学んだことが自然の中で成り立っていることを確かめる体験などを行うことで、学ぼうの意欲や科学への興味、関心を高める取組を行っている。

今後、子どもたちの体験的な活動や教員の実技研修を更に充実させ、科学教育の推進を図ってまいります。

議員 授業以外の取組として、

理科・科学関係のイベントにはどのようなものがあるか。教育部長 東京農工大学の協



▲親子植物マイスターの取組

力による訪問事業や植物の名前や特徴を覚える親子植物マイスターの取組などを実施している。

今後とも子どもが専門家に教わる機会などを通して理科・科学に親しめるよう、学校と連携して取り組んでいきたい。

もの忘れ相談医の役割を聞きたい

認知症の早期治療等の相談や専門医の紹介を行っている

西村 陸議員(公明) 本市では、もの忘れ相談医の設置や認知症サポーター「ささえ隊」の養成など多岐にわたる認知症対策を積極的に推進しているが、相談医の役割について聞きたい。

福祉保健部長 本市には相談医名簿に登録している医師が

29名おり、認知症の早期発見早期治療に向けた相談に応じるとともに、確定診断や専門治療を行うための専門医の紹介を行っている。

議員 認知症を正しく理解するための認知症サポーター「ささえ隊」養成講座について、関係機関に対する受講の推進や受講者への事後の取組等について聞きたい。

福祉保健部長 関係機関に対しては、地域包括支援センターが各小・中学校や自治会、民生委員、老人クラブ等に受講を勧めている。また、事後の取組として、受講者のうちボランティア活動を希望されている方に対し、同センターが懇談会開催などの働きかけを行っている。